

平成 28 年 12 月 31 日

統計トピックスNo. 98

^{とり}
「^{とり}酉年生まれ」と「新成人」の人口

— 平成29年 新年にちなんで —

(「人口推計」から)

^{とり}
酉年生まれは 943 万人

新成人は 123 万人

総務省統計局では、新年を迎えるに当たり、平成29年1月1日現在における
^{とり}「酉年生まれ」の人口と「新成人」の人口を推計しました。

要 約

I ^{とり}酉年生まれの人口は943万人

- 男性は457万人，女性は486万人
- 昭和44年生まれが最も多い
- 十二支の中で最も少ない

II 新成人人口は123万人

- 新成人人口（平成8年生まれ）は123万人で前年比2万人増
男性は63万人，女性は60万人
- 新成人人口は2年ぶりに増加

I ^{とり}酉年生まれの人口は943万人

男性は 457 万人, 女性は 486 万人

平成29年1月1日現在における^{とり}酉年生まれの人口は943万人で、総人口1億2686万人に占める割合は7.4%となっています。

男女別にみると、男性は457万人、女性は486万人で、女性が男性より29万人多くなっています。 (表1, 表2)

昭和44年生まれが最も多い

^{とり}酉年生まれの人口を出生年別にみると、昭和44年生まれ（平成29年に48歳になる人）が185万人と最も多く、次いで昭和56年生まれ（同36歳になる人）が151万人、昭和32年生まれ（同60歳になる人）が145万人、昭和20年生まれ（同72歳になる人）が128万人、平成5年生まれ（同24歳になる人）が119万人、平成17年生まれ（同12歳になる人）が105万人などとなっています。 (表2, 図2)

十二支の中で最も少ない

総人口を十二支別にみると、^{うし}丑年生まれが1108万人で最も多く、^ね子年（1091万人）、^{ひつじ}未年（1087万人）などと続いており、^{とり}酉年生まれは12番目で、最も少なくなっています。 (表1, 図1)

表1 十二支別人口

十二支	人口 (万人)	総人口に 占める割合 (%)	人口 順位
総数	12686	100.0	—
子(ね)	1091	8.6	2
丑(うし)	1108	8.7	1
寅(とら)	1073	8.5	8
卯(う)	1057	8.3	9
辰(たつ)	1076	8.5	6
巳(み)	1082	8.5	4
午(うま)	1027	8.1	10
未(ひつじ)	1087	8.6	3
申(さる)	1082	8.5	4
酉(とり)	943	7.4	12
戌(いぬ)	986	7.8	11
亥(い)	1076	8.5	6

図1 十二支別人口

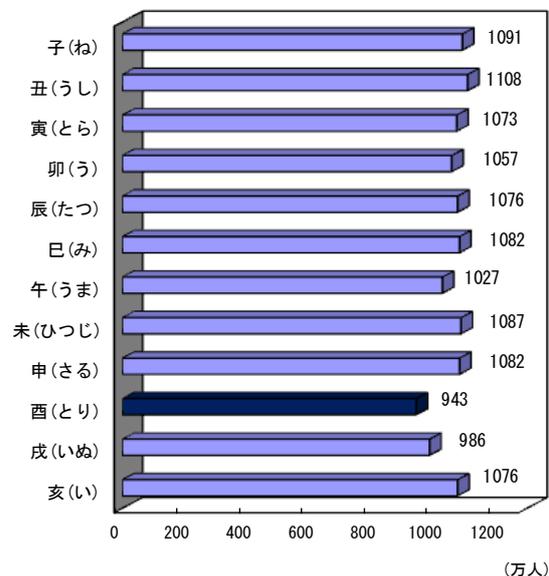


図2 男女、出生年別^{とり}酉年生まれの人口

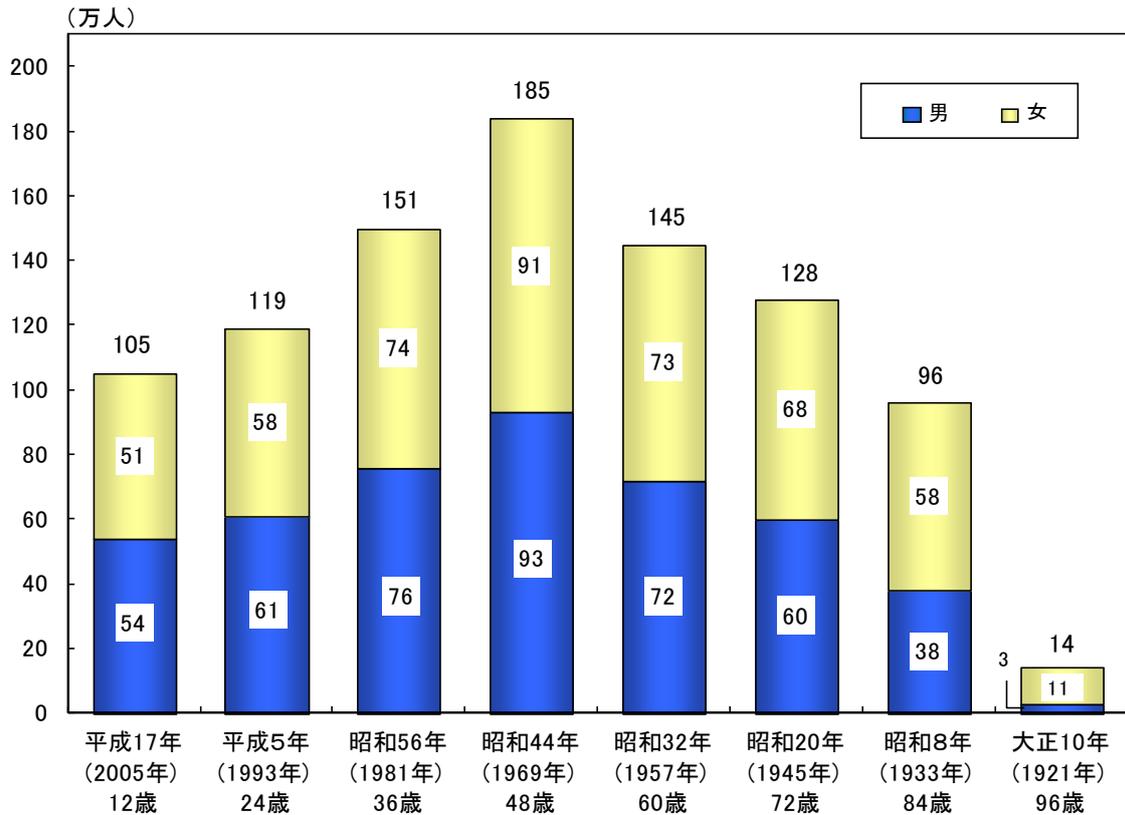


表2 男女、出生年別^{とり}酉年生まれの人口

生まれた年・年齢		男女計 (万人)	総数に占める割合 (%)	男 (万人)	総数に占める割合 (%)	女 (万人)	総数に占める割合 (%)
総数	—	943	100.0	457	100.0	486	100.0
平成17年 (2005年)	12歳	105	11.2	54	11.8	51	10.6
平成5年 (1993年)	24歳	119	12.7	61	13.4	58	12.0
昭和56年 (1981年)	36歳	151	16.0	76	16.7	74	15.3
昭和44年 (1969年)	48歳	185	19.6	93	20.4	91	18.8
昭和32年 (1957年)	60歳	145	15.3	72	15.7	73	15.0
昭和20年 (1945年)	72歳	128	13.6	60	13.2	68	14.0
昭和8年 (1933年)	84歳	96	10.2	38	8.3	58	12.0
大正10年 (1921年)	96歳	14	1.4	3	0.6	11	2.3

- * 数値は万人単位に四捨五入してあるので、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。
- * 割合は表章単位未満を含んだ数値から算出している。
- * 図及び表中の年齢は、平成29年に誕生日を迎えた時の年齢
- * 十二支別人口は、1月1日現在の推計のため、平成29年生まれの酉年の人は含まれない。

II 新成人人口は123万人

新成人人口(平成8年生まれ)は123万人で前年比2万人増
男性は63万人、女性は60万人

この1年間(平成28年1月～12月)に、新たに成人に達した人口(平成29年1月1日現在20歳の人口)は123万人で、前年と比べると2万人の増加となっています。

男女別にみると、男性は63万人、女性は60万人で、男性が女性より3万人多く、女性100人に対する男性の数(人口性比)は105.8となっています。(表3、図3)

新成人人口は2年ぶりに増加

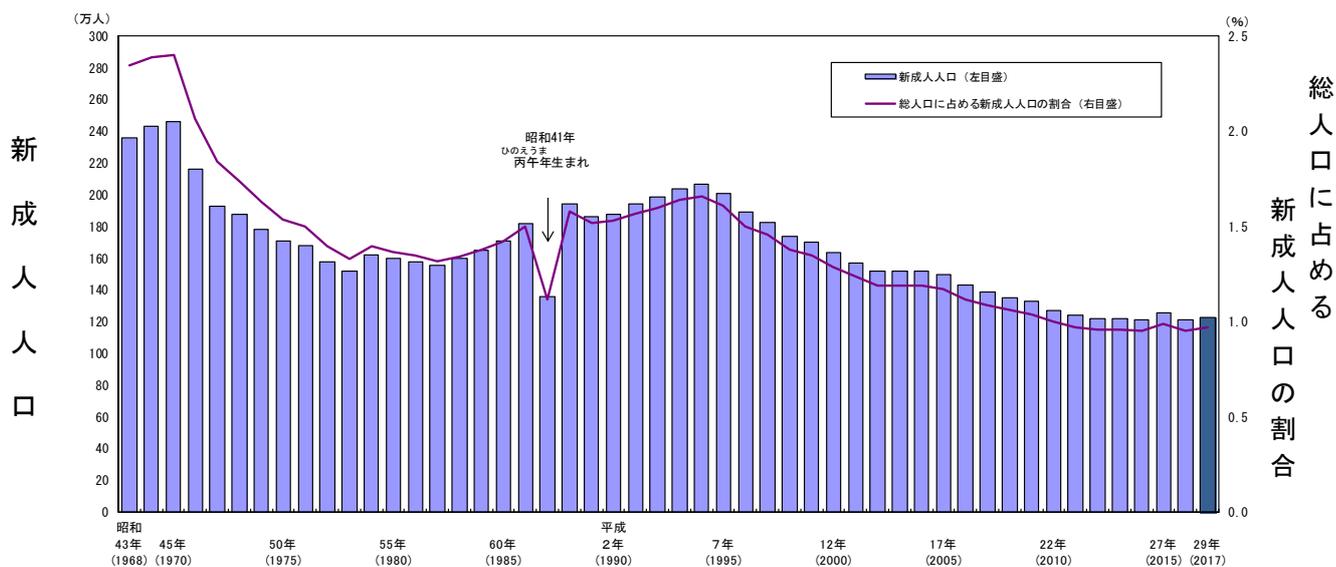
新成人人口について、この推計を開始した昭和43年からの推移をみると、第1次ベビーブーム(昭和22年～24年)世代の昭和24年生まれの人が成人に達した45年が246万人で最も多くなった後、減少に転じ、53年には152万人となりました。その後、昭和50年代後半から再び増加傾向を続け、第2次ベビーブーム(昭和46年～49年)世代の人が成人に達した時に200万人台(最多は平成6年207万人)となった後、平成7年に再び減少に転じて以降は減少傾向を続けています。

表3 新成人人口の推移

年次(西暦)	新成人人口 (万人)			総人口に 占める 割合(%)	人口性比	年次(西暦)	新成人人口 (万人)			総人口に 占める 割合(%)	人口性比
	男女計	男	女				男女計	男	女		
昭和43年(1968)	236	119	117	2.35	101.6	平成5年(1993)	204	104	99	1.64	105.0
44(1969)	243	123	121	2.39	101.9	6(1994)	207	106	101	1.66	105.0
45(1970)	246	124	123	2.40	101.0	7(1995)	201	103	98	1.61	105.6
46(1971)	216	110	106	2.07	103.9	8(1996)	189	97	92	1.50	105.3
47(1972)	193	98	96	1.84	102.0	9(1997)	183	94	89	1.46	104.7
48(1973)	188	94	94	1.74	100.8	10(1998)	174	89	85	1.38	105.0
49(1974)	178	89	89	1.63	100.6	11(1999)	170	87	83	1.35	105.2
50(1975)	171	87	84	1.54	103.6	12(2000)	164	84	80	1.29	105.4
51(1976)	168	86	83	1.50	103.7	13(2001)	157	81	77	1.24	105.3
52(1977)	158	81	77	1.40	104.5	14(2002)	152	78	74	1.19	104.7
53(1978)	152	77	75	1.33	102.8	15(2003)	152	77	74	1.19	104.7
54(1979)	162	82	80	1.40	103.3	16(2004)	152	78	74	1.19	104.7
55(1980)	160	81	78	1.37	103.9	17(2005)	150	77	73	1.17	104.9
56(1981)	158	81	78	1.35	104.3	18(2006)	143	73	70	1.12	105.0
57(1982)	156	80	76	1.32	104.5	19(2007)	139	72	67	1.09	106.4
58(1983)	160	81	78	1.34	104.2	20(2008)	135	69	66	1.06	105.2
59(1984)	165	84	81	1.38	104.3	21(2009)	133	68	65	1.04	104.9
60(1985)	171	87	83	1.42	104.8	22(2010)	127	65	62	1.00	104.7
61(1986)	182	93	89	1.50	104.2	23(2011)	124	63	61	0.97	104.2
62(1987)	136	70	66	1.12	105.7	24(2012)	122	62	60	0.96	104.9
63(1988)	194	99	95	1.58	103.9	25(2013)	122	63	59	0.96	105.4
64・平成元年(1989)	186	96	91	1.52	105.3	26(2014)	121	62	59	0.95	105.1
2(1990)	188	97	92	1.53	105.5	27(2015)	126	65	61	0.99	105.5
3(1991)	194	99	94	1.57	105.4	28(2016)	121	62	59	0.95	105.1
4(1992)	199	101	97	1.60	104.2	29(2017)	123	63	60	0.97	105.8

平成29年の新成人人口は123万人、総人口に占める割合は0.97%となり、前年と比べ2万人、0.02ポイント増と、2年ぶりの増加となりました。これは、平成29年の新成人の出生年である8年の出生数が、7年に比べ増加したことによる影響と考えられます。(表3、図3)

図3 新成人人口及び総人口に占める割合の推移



- * 「人口推計」(各年1月1日現在)
- * 数値は万人単位に四捨五入してあるので、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。
- * 割合は表章単位未満を含んだ数値から算出している。

「人口推計」が基幹統計になります！！

人口推計は、5年ごとに作成される国勢調査の間の人口について、その間の自然動態（出生及び死亡）、社会動態（出入国等）及び国籍異動の状況を反映して、各月1日現在及び各年10月1日現在の状態を明らかにすることを目的として作成する加工統計で、各種政策の企画立案や国民経済計算等の各種統計作成の基礎資料として利用されています。

この人口推計を基幹統計として指定することについては、「公的統計の整備に関する基本的な計画」（平成26年3月25日閣議決定）において推進すべき事項とされており、平成28年6月、統計委員会に対し、基幹統計に指定することの諮問が行われました。その後の審議を経て、8月の統計委員会において、「人口推計については、基幹統計の要件に該当しているため、基幹統計として指定することは適当である。」との答申がなされました。

基幹統計とは、国勢統計、国民経済計算、その他国の行政機関が作成する統計のうち総務大臣が指定する特に重要な統計をいいます。

<基幹統計の要件>

- ◆ 全国的な政策を企画立案し、又はこれを実施する上において特に重要な統計
- ◆ 民間における意思決定又は研究活動のために広く利用されると見込まれる統計
- ◆ 国際条約又は国際機関が作成する計画において作成が求められている統計その他国際比較を行う上において特に重要な統計



平成29年4月公表分から、基幹統計として公表する予定です。



※ 人口推計は、国勢調査による人口を基に、その後の人口動向を他の人口関連資料から得て算出しています。

- ◆ 「人口推計」の詳しい結果を御覧になる場合は、次のURLを参照ください。

<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.htm>

人口推計

検索

- ◆ このトピックスは、次のURLから御覧になれます。

<http://www.stat.go.jp/data/topics/index.htm>

- ◆ このトピックスに掲載されている解説文、図等の情報を引用・転載する場合には、出典の表記をお願いします。

(例)「人口推計」(総務省統計局)

【問合せ先】



総務省統計局 統計調査部 国勢統計課 人口推計係
〒162-8668 東京都新宿区若松町19番1号
TEL : 03(5273)1009
FAX : 03(5273)1552
Eメール : c-suikei@soumu.go.jp